

関西経済レポート(4月号)

- ❖ 2月の鉱工業生産指数は、3カ月ぶりに前月比低下。ただし、1-2月平均を10-12月平均と比較すれば+4.1%と増加傾向。
- ➡ 3月の貿易動向は、輸出は25カ月連続で前年比増加、輸入は2カ月ぶりに減少。結果、貿易収支は3カ月ぶりの黒字となり、2011年3月以来の2,000億円超となった。
- ➡ 3月の消費者態度指数及び景気ウォッチャー現状判断DIは、いずれも4カ月連続で改善。インバウンド関連の好調が続いており、消費者心理は改善している。
- ❖ 3月の大型小売店販売額は、前年の駆け込み需要の影響により9カ月ぶりの前年比マイナスとなった。
- ➡ 3月の新設住宅着工戸数は、7カ月連続の前年比マイナスも、減少幅は3カ月連続で前月から縮小。
- ➡ 3月の関西の有効求人倍率は、4カ月連続で前月比横ばい。雇用の回復は一服している。失業率は非労働力人口減少と就業者数増加により改善した。
- ❖ 3月の公共工事請負金額は、前年比-14.9%と5カ月連続の大幅減。公共工事受注は減少トレンドにある。2月の建設工事は前年比-0.2%と34カ月ぶりの減少。建設工事の伸びは停滞している。
- ❖ 1-3月期の中国実質GDP成長率は、前年同期比+7.0%となり、前期より減速した。市場コンセンサスを上回る結果であったが、8%を下回る成長が12期続いている。

※「近畿」「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。
鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

※本レポートは、一般財団法人アジア太平洋研究所
“Kansai Economic Insight Monthly”と連携しています。

～ 関西経済のトレンド ～

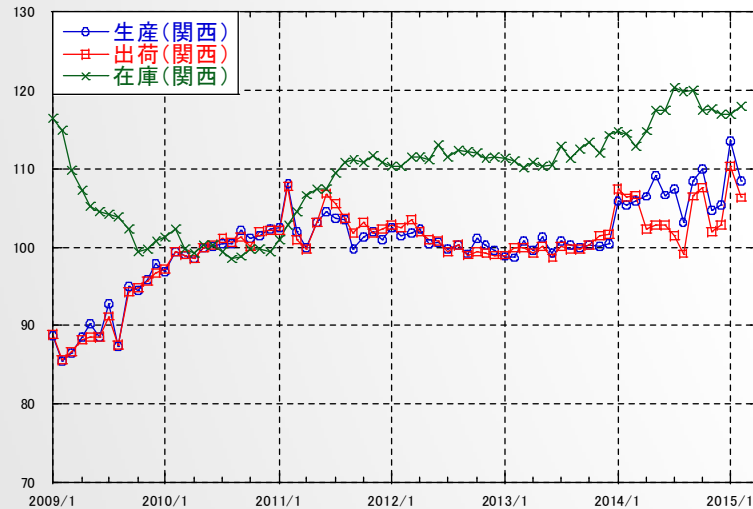
	2014年										2015年		
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生産	↓	↑	↑	↓	↑	↓	↑	↑	↓	↑	↑	↓	—
貿易	↓	↑	→	↓	↑	→	→	↑	→	↑	↑	↓	↑
センチメント	↓	↓	↑	↑	↑	↓	↓	↓	↓	↑	↑	↑	↑
消費	↑	↓	→	→	→	↑	↑	↑	↑	↑	→	↑	↓
住宅	→	↑	↓	→	↓	↑	↓	↓	↓	↓	↓	↓	→
雇用	→	→	↑	→	→	→	→	↑	↑	↑	→	→	→
公共工事	↓	↑	↑	→	→	→	↓	↑	↓	↓	↓	↓	↓
中国	→	→	→	↑	↑	↓	↑	→	↓	↓	↓	→	↓

～目次～

生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向	7

～生産～

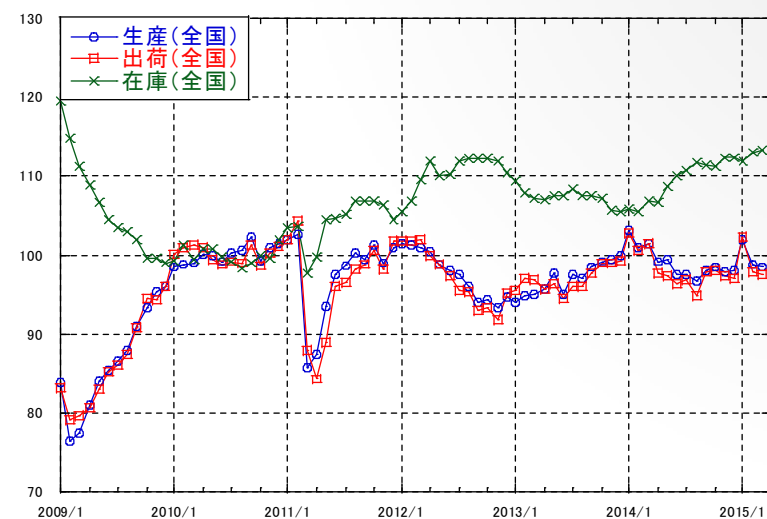
鉱工業指数の推移(近畿・2015年2月まで), 2010年=100



(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

- 関西における2月の鉱工業指数(確報値：季節調整済)は、生産は108.5で前月比-4.5%、出荷は106.4で同-3.6%といずれも3カ月ぶりの低下。一方、在庫は118.1で同+0.9%と3カ月ぶりの上昇となった。
- 業種別にみると、食料品・たばこ(同-15.2%)、化学(除医薬品)(同-5.3%)、電子部品・デバイス(同-10.2%)等が減産となった。一方、プラスチック製品(同+1.7%)、その他(同+0.6%)等は増産となった。
- 足下、関西の生産は低下しているが、1-2月平均は10-12月期平均に対して前期比+4.1%の増産となっている。

鉱工業指数の推移(全国・2015年3月まで), 2010年=100

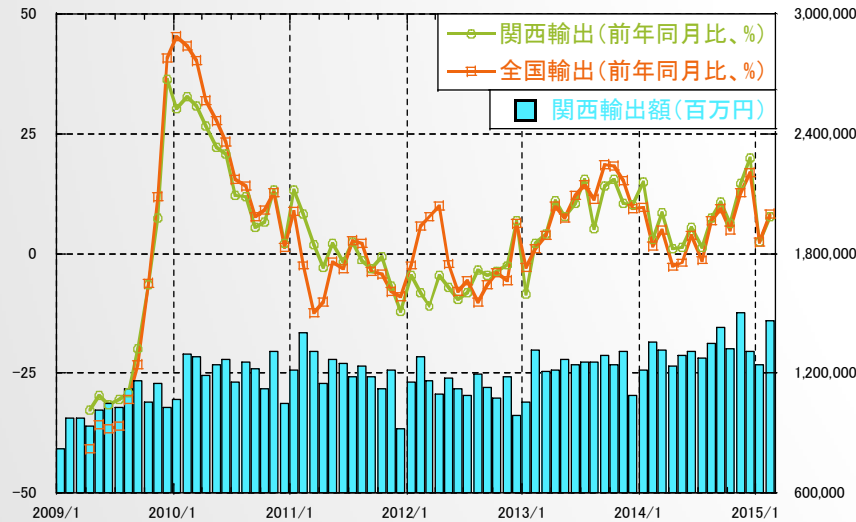


(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

- 全国における3月の鉱工業生産指数(速報値、季節調整済)は98.6となり前月比-0.3%、出荷は97.6で同-0.3%といずれも2カ月連続の下落。在庫は113.3で同+0.3%と2カ月連続の上昇となった。
- 業種別にみると、電器機械(同-3.7%)、石油・石炭製品(同-7.7%)、金属製品(同-2.7%)等が減産となった。一方、輸送機械(同+1.2%)、情報通信機械(同+5.4%)、はん用・生産用・業務用機械(同+0.8%)等は増産となった。
- 製造工業生産予測調査では、4月は前月比+2.1%と増産の予定であるが、前月の見込み(同+4.0%)からは低い水準である。5月は同-0.3%と減産の見込みである。
- 結果、1-3月期の鉱工業生産は、前期比+1.7%と緩やかながら前期(同+0.8%)から加速した。

～輸出入～

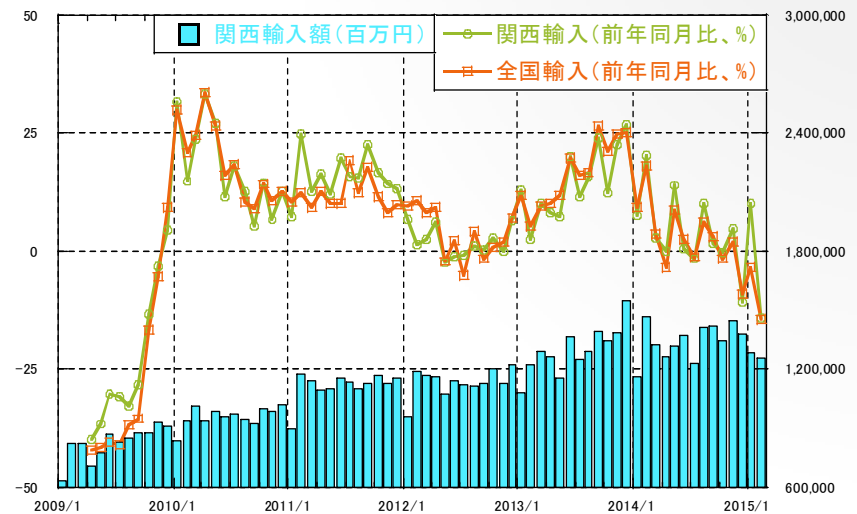
輸出動向（右：輸出額、左：前年同月比）(2015年3月まで)



(出所)大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」

- 関西3月の輸出額(速報値)は1兆4,592億円、前年同月比+7.9%と25カ月連続の増加。
- 財別に見れば、輸出増加に主に貢献したのは、半導体等電子部品、建設用・鉱山用機械であった。一方、鉱物性燃料、有機化合物は減少となった。
- 全国3月の輸出額(確報値)は6兆9,268億円となり、前年同月比+8.5%と7カ月連続の増加。財別に見れば、自動車、半導体等電子部品、金属加工機械等の輸出が増加した。一方、鉱物性燃料は減少となった。
- ちなみに、足下、為替レート(税関長公示レートベース)は119.86円と前年同月比-17.2%の円安であった。

輸入動向(右:輸入額、左:前年同月比)(2015年3月まで)

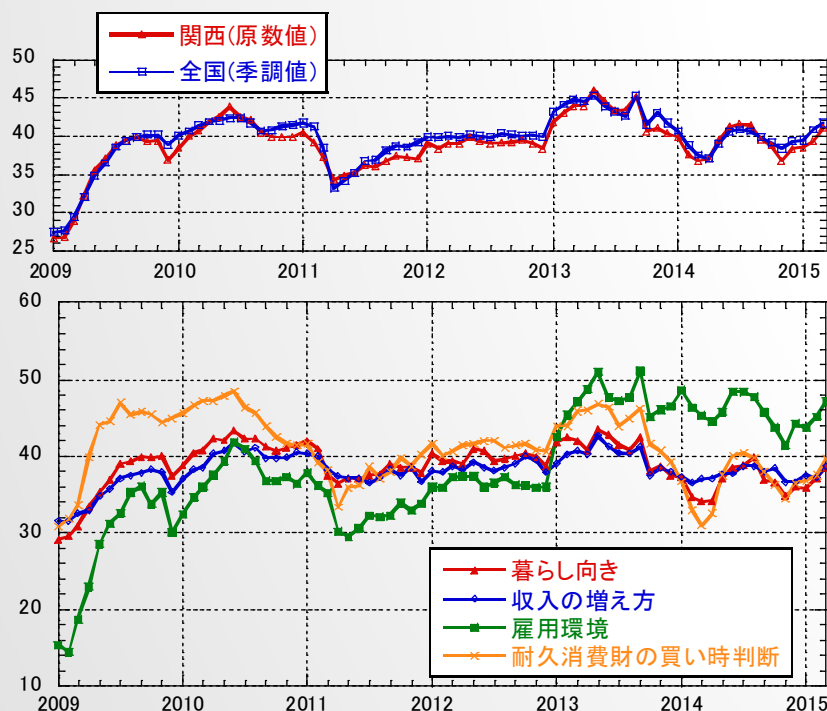


(出所)財務省「貿易統計」

- 関西3月の輸入額(速報値)は1兆2,560億円、伸びは前年同月比-14.2%と2カ月ぶりの減少。
- 財別に見れば、原油及び粗油、通信機等が減少。半導体等製造装置(単月過去最高額)、無機化合物は増加した。
- 全国3月の輸入額(速報値)は6兆6,994億円、前年同月比-14.5%と3カ月連続の減少。財別に見れば、原粗油、石油製品、液化天然ガス等の輸入が減少した。
- 結果、関西の貿易収支(速報値)は+2,032億円と3カ月ぶりの黒字で、黒字幅は2011年3月以来の2,000億円超となった。前年同月から3,159億円の改善。全国の貿易収支(確速値)は+2,274億円と33カ月ぶりの黒字。赤字幅は前年同月から1兆6,776億円改善した。結果、2014年度の貿易収支は、関西は-271億円と3年連続で赤字、全国は-9兆1,361億円と4年連続の赤字となった。

～消費者センチメント～

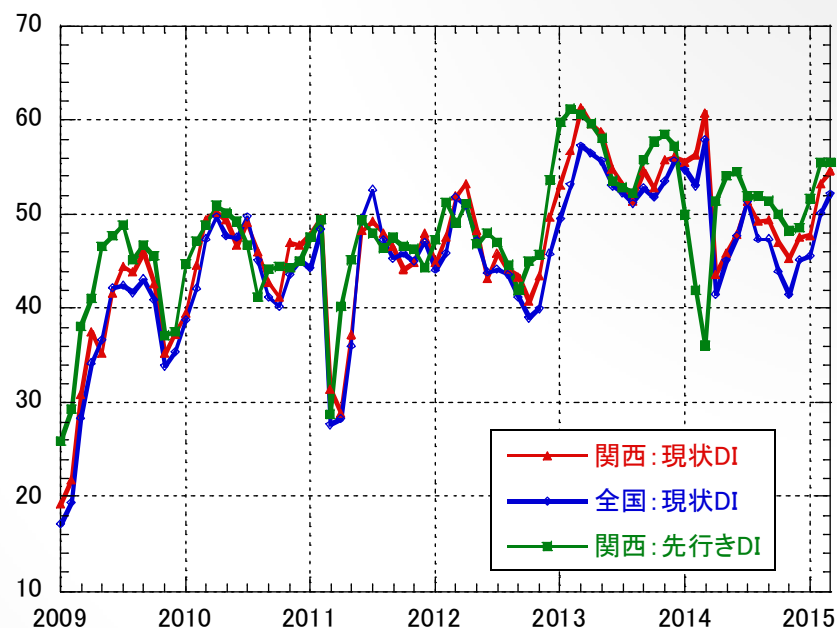
消費者態度指数(2015年3月まで)



(出所)内閣府「消費動向調査」

- 関西の3月の消費者態度指数(原数値)は前月比+1.7ポイントの41.0と、4カ月連続の改善。全国(季節調整値)でも同+0.8ポイントの41.7と4カ月連続で改善しており、2013年12月以来の水準となった。内閣府も消費者心理の基調判断を上方修正するなど、消費者心理は改善している。
- 関西で同指数の構成項目をみると、3月は全ての項目が前月から改善した。「耐久消費財の買い時判断」は同+2.0ポイントと4カ月連続で改善。「雇用環境」も同+1.9ポイントと2カ月連続の改善。「暮らし向き」が同+1.5ポイントと2カ月連続で改善。「収入の増え方」は同+1.5ポイントと2カ月ぶりに改善した。

景気ウォッチャー調査(2015年3月まで)

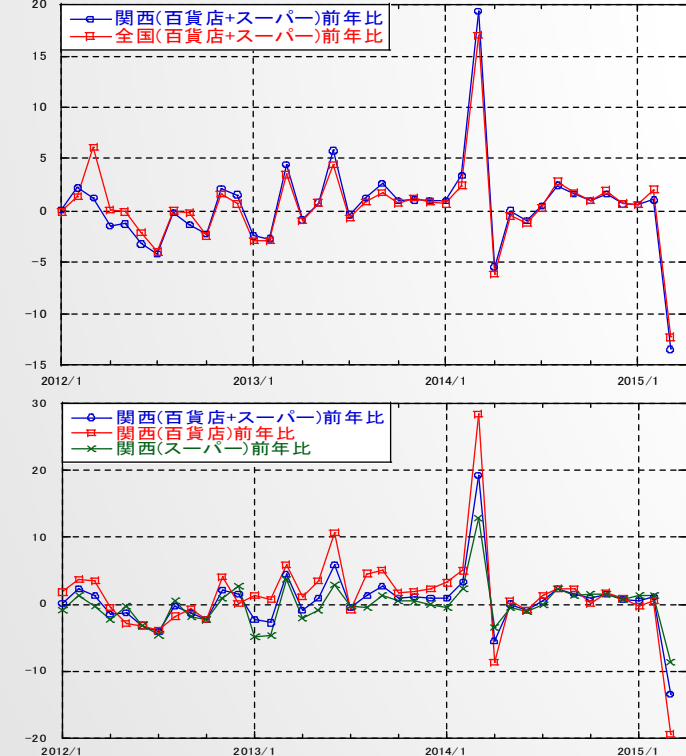


(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

- 関西の3月の現状判断DIは前月比+1.3ポイント上昇し54.6となった。4カ月連続の改善で、横ばいを示す50を2カ月連続で上回った。インバウンド関連の好調が続くなかで、百貨店やホテル関連を中心に好調が続いたことが寄与した。全国も同+2.1ポイントと4カ月連続で改善し52.2となった。
- 先行き判断DIは、関西では55.5と前月比横ばい。インバウンド関連の好調が続き、賃上げによるプラス効果が期待される一方で、物価上昇を懸念する声も依然として多く、先行きは不透明。全国は同+0.2ポイント小幅上昇の53.4となり、4カ月連続の改善。

～個人消費・住宅～

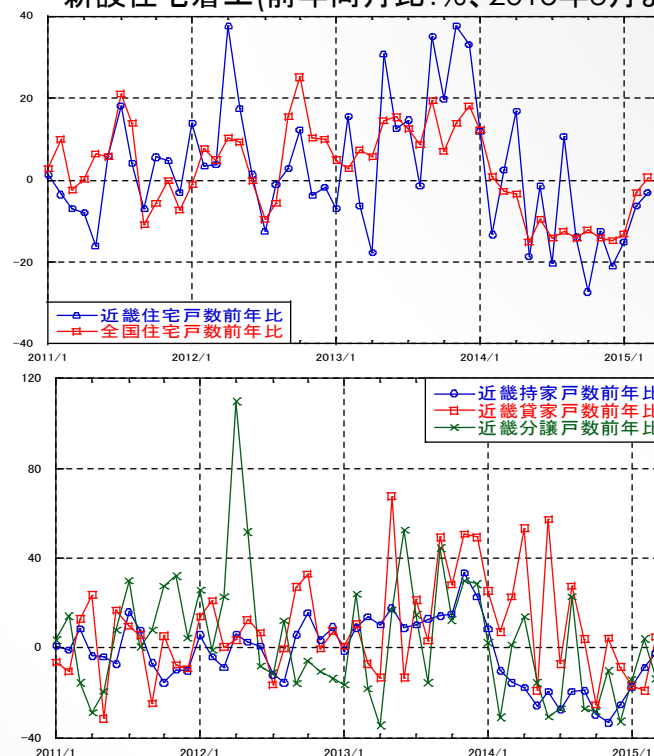
大型小売店販売額(前年同月比:%、2015年3月まで)



(注)福井県を含む。
(出所)経済産業省「商業動態統計」

- 関西3月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比-13.4%と大幅減少し、9カ月ぶりのマイナス。
- 百貨店は同-19.4%と大幅減少した。2カ月ぶりのマイナス。
- スーパーは同-8.8%と8カ月ぶりのマイナス。
- 全国の大型小売店販売額(全店ベース)は同-12.3%と大幅マイナス。9カ月ぶりに減少した。
- 3月の大型小売店販売額の伸びは大幅に減少したが、前年同月の消費増税に伴う駆け込み需要が影響している。

新設住宅着工(前年同月比:%、2015年3月まで)

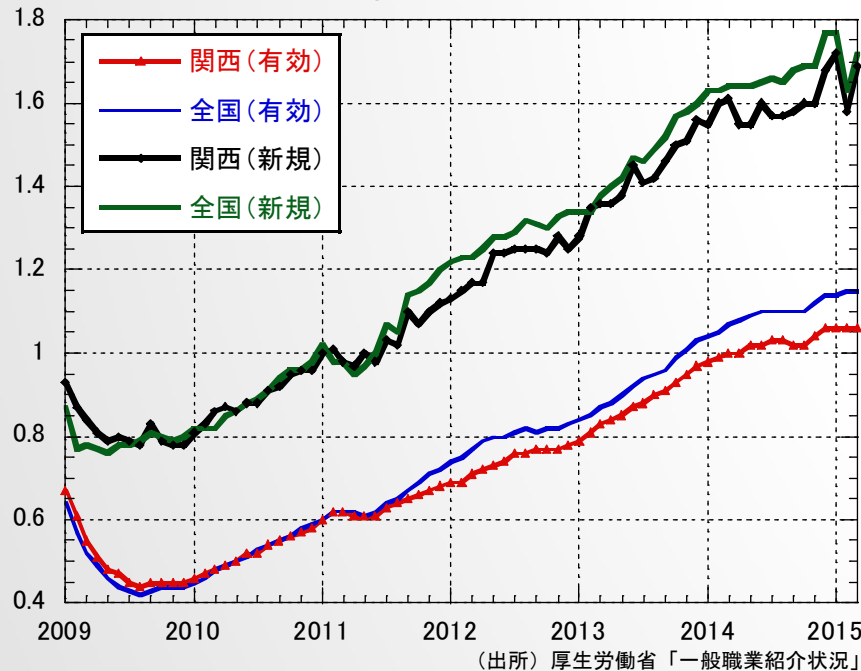


(出所)国土交通省「住宅着工統計」

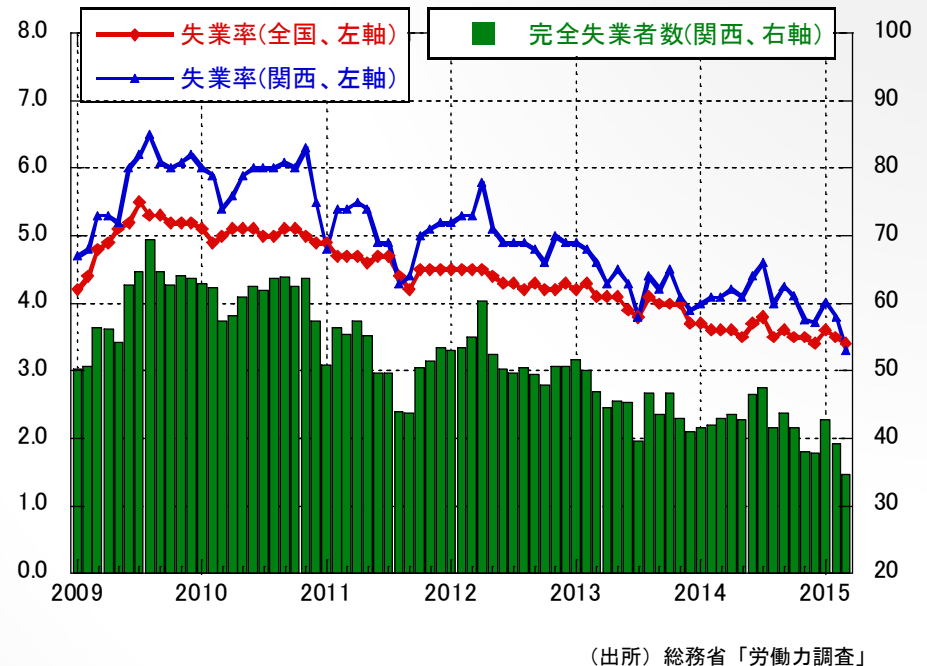
- 関西3月の新設住宅着工戸数は10,832戸。前年同月比-3.0%と7カ月連続の減少も、減少幅は3カ月連続で縮小。
- 全国は73,099戸、同+0.7%微増した。13カ月ぶりのプラス。
- 関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は2,593戸と同-2.1%と14カ月連続の減少。貸家は4,517戸、同+4.9%と4カ月ぶりの増加。分譲は3,622戸、同-13.7%と2カ月ぶりの大幅減少となった。
- なお、3月の関西マンション契約率は70.4%(季節調整値、APIR推計)となった。好不調の目安となる70%を2カ月ぶりに回復した。
- 全国では住宅着工が増加に転じており、関西の着工数の減少幅も縮小している。

～雇用～

求人倍率の推移（季節調整値、2015年3月まで）



完全失業率の推移（季節調整値：%、万人、2015年3月まで）



関西2府4県有効求人倍率(受理地別)(2015年3月)

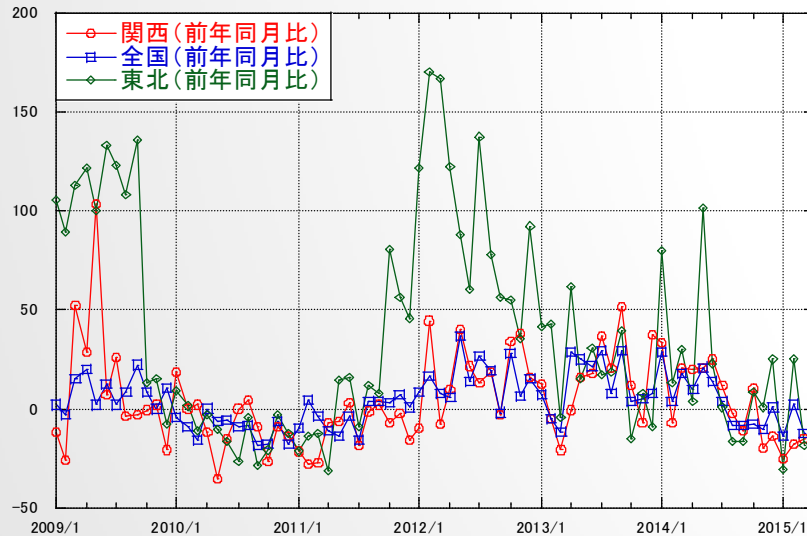
	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
3月	1.15	1.06	1.03	1.07	1.14	0.95	0.90	0.99
2月	1.15	1.06	1.00	1.09	1.15	0.94	0.88	0.98

- 3月の関西の有効求人倍率は、1.06倍と4カ月連続で前月比横ばいとなった。全国も1.15倍と前月比横ばい。雇用情勢の回復に一服感がみられる。
- 府県別にみると、滋賀県で同+0.03ポイント上昇し1.03倍。一方、京都府では同-0.02ポイント低下し1.07倍となった。
- 3月の関西の新規求人倍率は、1.69倍と前月比+0.11ポイント上昇し、2015年1月(1.72倍)に並ぶ高さとなった。大阪府では、製造業、卸売・小売業や生活関連サービス業などで求人数が伸びており、雇用情勢は堅調である。全国は1.72倍と前月比+0.09ポイント上昇した。

- 3月の関西の完全失業率(季節調整値：APIR推計)は3.3%で前月(3.8%)から-0.5%ポイント低下し、2カ月連続の改善となった。非労働力人口の減少と就業者数の増加が失業者数の減少につながっている。
- 結果、関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は34.6万人で前月(39.3万人)から-4.7万人減少した。
- 全国の完全失業率(季節調整値)は3.4%、前月から-0.1%ポイント低下し2カ月連続の改善。年代別にみると15～24歳の若年層の失業者が大きく減少したことによる。
- 全国の15～64歳の就業率(原数値ベース)をみると、72.7%となり、前年同月比+0.7%ポイントの上昇にとどまった。性別では、女性の就業率は63.7%と同+1.0%ポイント上昇した。

～公共投資～

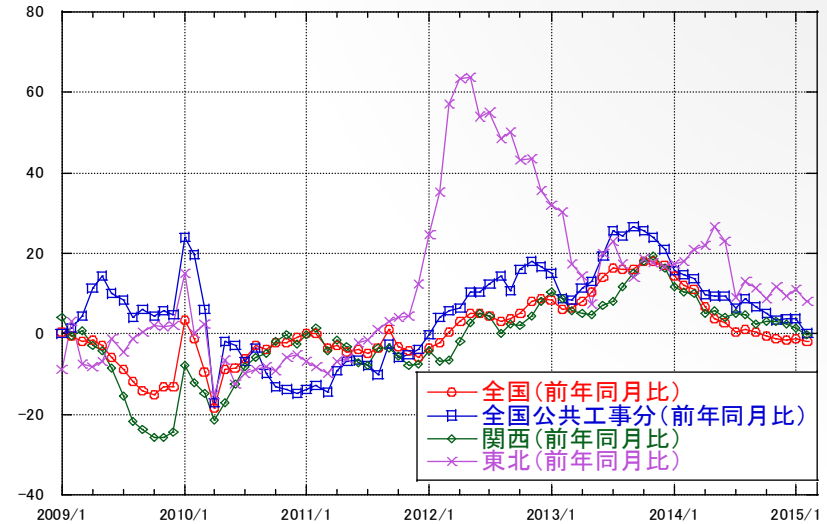
公共工事請負額(前年同月比:%、2015年3月まで)



(注)福井県を含む。
(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

- 関西3月の公共工事請負金額は1,124億円、前年同月比-14.9%と5カ月連続で2桁のマイナス。
- 全国は1兆2,755億円、同-12.4%大幅減少。2カ月ぶりのマイナス。
- 東北は2,587億円、同-18.5%大幅減少し、2カ月ぶりのマイナス。
- 関西の2014年度の公共工事受注は前年比+1.0%と3年連続のプラスだが、全国は-0.3%と3年ぶりのマイナスとなった。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、3月は関西、全国共に3カ月連続で前月から減少(関西：同-7.9%、全国：同-21.8%)。
- 結果、1-3月期は全国が前期比-2.9%、関西は同-24.0%といずれも3期連続の減少となったが、関西の落ち込み幅は前期より拡大した。

建設工事(前年同月比:%、2015年2月まで)

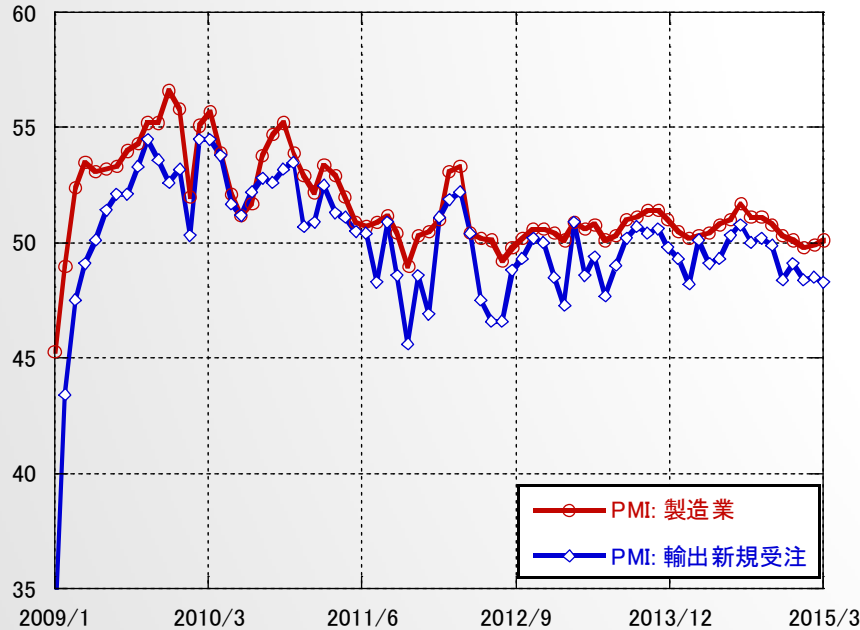


(出所)国土交通省「建設総合統計」

- 関西2月の建設工事は5,841億円、前年同月比-0.2%と34カ月ぶりの減少。
- 東北は5,909億円、同+8.1%と43カ月連続の増加。
- 全国は4兆5,103億円となり、同-2.1%と5カ月連続の減少。
- うち、全国の公共工事は同+0.2%微増の2兆1,274億円となった。伸びは37カ月連続の増加も、11カ月連続で1桁にとどまっている。
- 建設工事の伸びは停滞している。

～中国経済動向①～

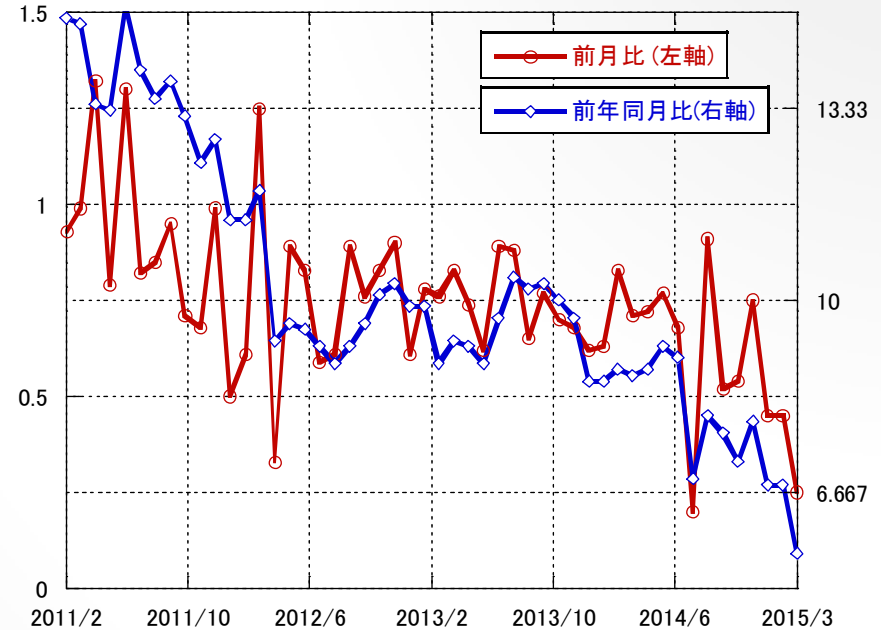
製造業購買担当者景況指数 (2015年3月まで:%)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 3月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は、50.1となり、前月から+0.2ポイント上昇し、2カ月連続の改善。3月ぶりに50を上回った。
- うち、生産指数は52.1と同+0.7ポイント上昇し、6カ月ぶりの改善。新規受注指数は50.2となり、同-0.2ポイント低下し、2カ月ぶりの悪化となった。輸出新規受注指数は同-0.2ポイント低下し、48.3となり、6カ月連続で50を下回った。雇用指数は48.4と同+0.6ポイント上昇し、5カ月ぶりのプラスとなったが、2012年6月以降、34カ月連続で50を下回っている。

工業生産指数(2015年3月まで:%)

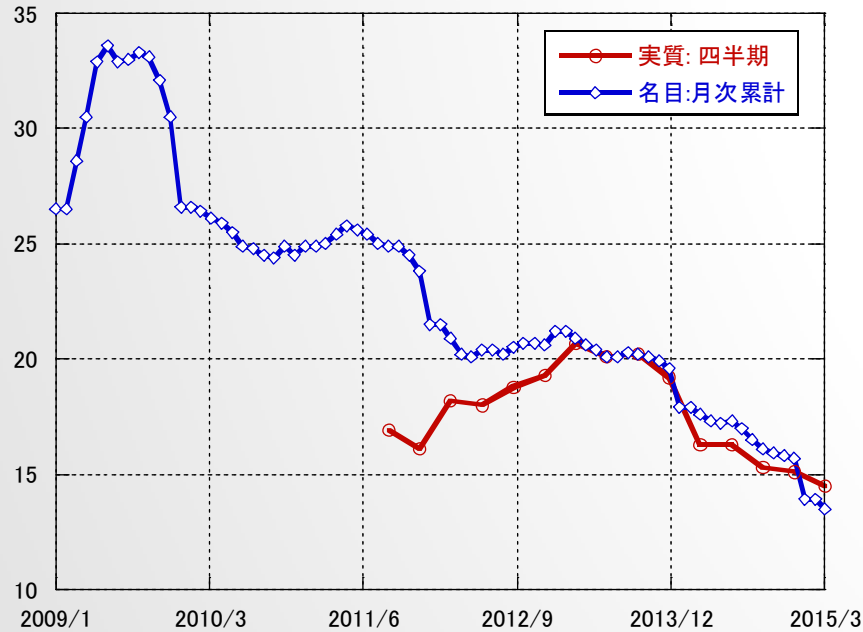


(出所) 中国税関; CEICデータベース(APIR推計)

- 3月の工業生産は、前月比+0.3%と、前月から-0.2ポイント低下した。12月(+0.8%)は幾分回復したが、減速が続いている。前年同月比は+5.6%となり、前月から-1.2ポイント低下した。12月から減速が続いている。
- 産業別に見ると、鉄道・輸送機器製造業(同+15.5%)、パソコン・通信設備製造業(同+12.3%)、医薬製造業(同+11.4%)が高い伸びを示す一方で、通用設備製造業(同+2.4%)、専用設備製造業(同-0.2%)、電力・熱力生産・供給業(同-2.6%)等は比較的低調な伸びにとどまった。

～中国経済動向②～

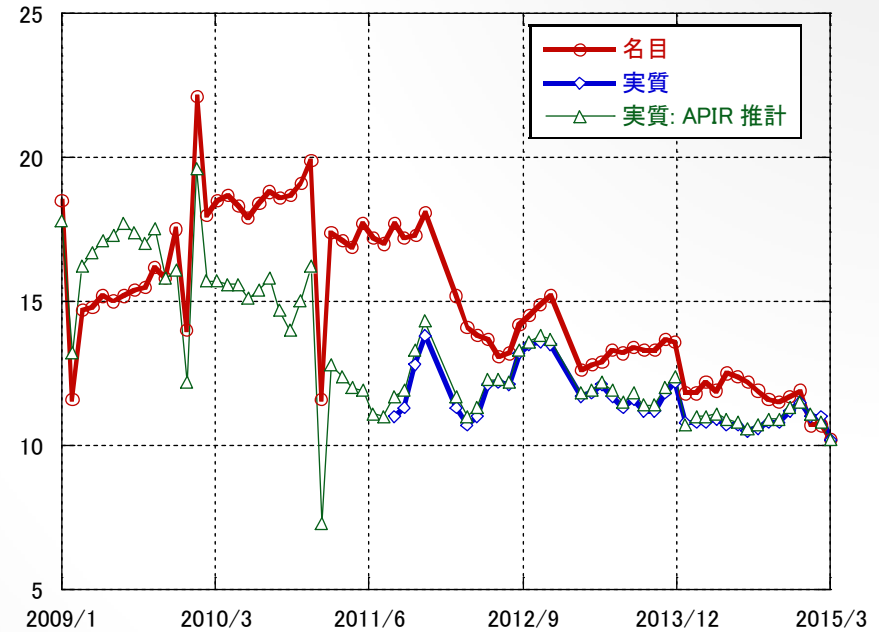
固定資産投資 (2015年3月まで:%) (累積伸び率)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 2015年1-3月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+13.5%となった。9カ月連続で減速している(1-2月期: 同+13.9%)。
- 産業別に見れば、第1次産業は同+32.8% (1-2月+36.3%)、第2次産業は同+11.0%(1-2月+11.5%)、第3次産業は同+14.7%(1-2月+14.8%)となった。

社会消費品小売総額 (2015年3月まで:%)



(注) APIR推計値は小売価格指数を用いて推計
(出所) 中国税関; CEICデータベース(APIR推計)

- 3月の社会消費品小売総額の名目成長率は前年同月比+10.2%となり、前月(同+10.7%)から小幅に減少した。消費は中国経済成長のエンジンと期待されているが、2015年に入り、減速が続いている。

～中国経済動向③～

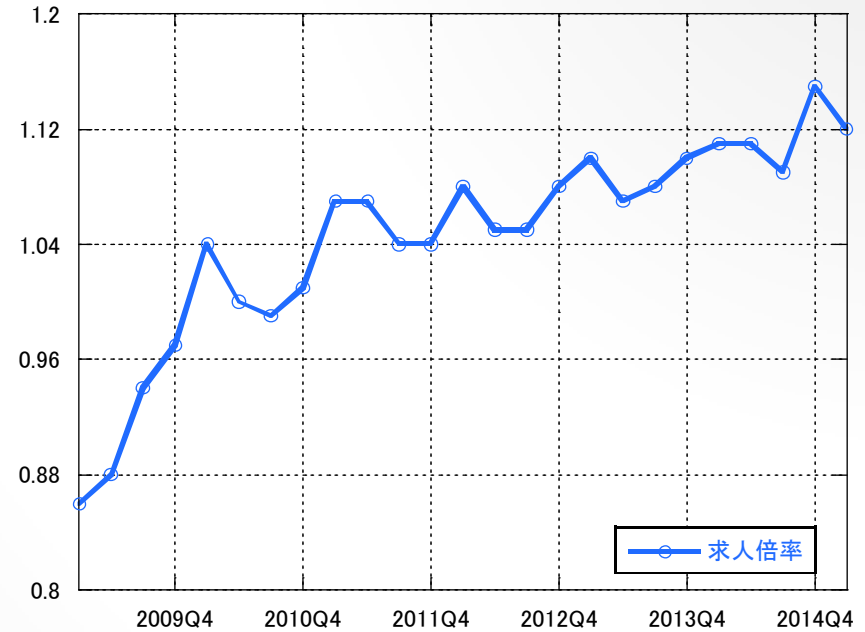
日本との貿易 (前年同月比:円ベース) (2015年3月まで:%)



(出所) 中国税関;CEICデータベース;APIR計算

- 3月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比-15.0%減少し、前月(同+48.3%)よりマイナスに転じた。輸入額は同-12.9%(速報値)となり、5カ月連続のマイナスとなった。
- うち日本への輸出額は同-24.8%となり、前月(同+23.6%)より伸びはマイナスに転じた。日本からの輸入額は同-5.5%となり、5カ月連続のマイナスとなった。
- 円ベースに換算すると、日本への輸出額は同-11.5%となり、前月よりマイナスに転じた。日本からの輸入額は同+11.2%となり、3カ月連続のマイナスとなった。

求人求職倍率 (2015年1-3月期まで)

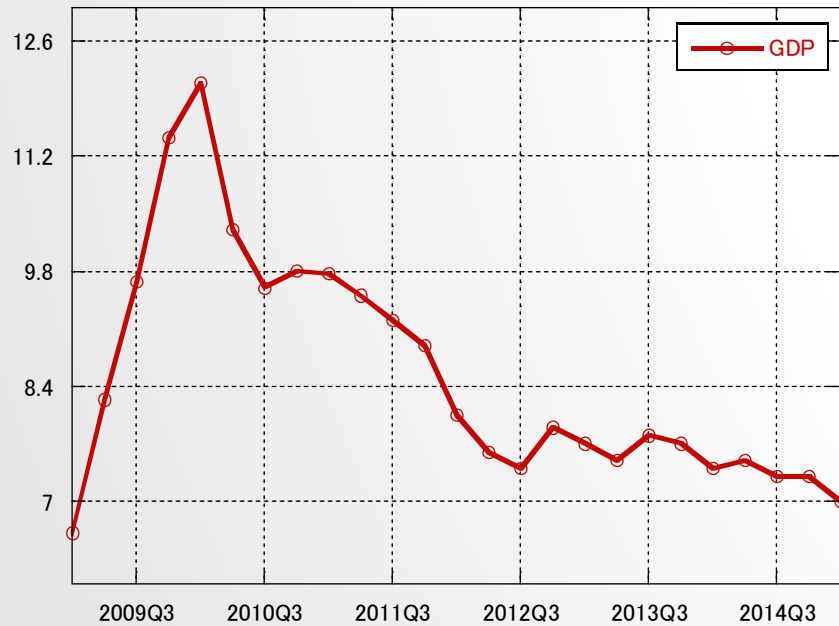


(出所) 中国労働市場情報観測センター;CEICデータベース;APIR計算

- 1-3月期の有効求人倍率は1.12となり、10-12月期(1.15)より小幅低下した。求人倍率を地域別に見ると、東部は1.09(10-12月期1.14)、中部は1.14(同1.15)、西部は1.16(同1.17)となっている。西部の労働需給は相対的に逼迫している。

～中国経済動向④～

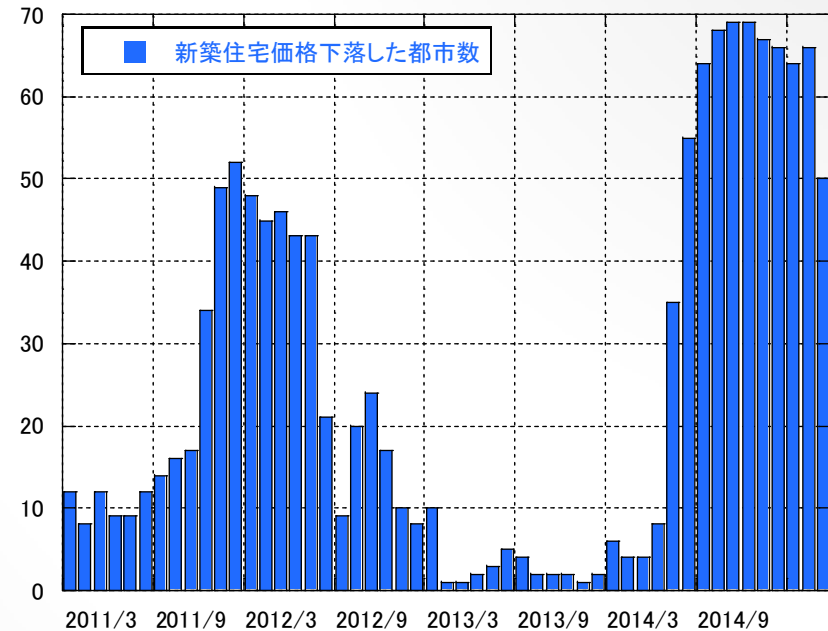
中国のGDP成長率(前年同期比) (2015年1-3月期まで:%)



(出所) 中国税関;CEICデータベース;APIR計算

- 2015年1-3月期の実質GDP成長率は前年同期比+7.0%となり、前期より減速した。市場コンセンサスを上回る結果であった。しかし8%を下回る成長率が12期続いている。2009年以来の低い値となった。
- 業種別にみると、第1次産業の成長率は同+3.2%、第2次産業は同+6.4%、第3次産業は同+7.9%となった。すべて悪化した。

新築住宅価格の主要都市集計 (2015年3月まで:都市数)



(出所) 中国国家统计局;CEICデータベース

- 不動産価格を見ると、中国主要70都市のうち、3月は50都市の新築住宅価格が前月に比べて下落した。8都市の新築住宅価格が前月に比べて上がった。12都市が横ばい。下落した都市の数は2月の66都市より減少した。

※関西経済のトレンド 評価基準について

- 生産：近畿経済産業局『近畿地域鉱工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- 貿易：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- センチメント：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- 消費：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 住宅：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 雇用：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- 公共工事：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。